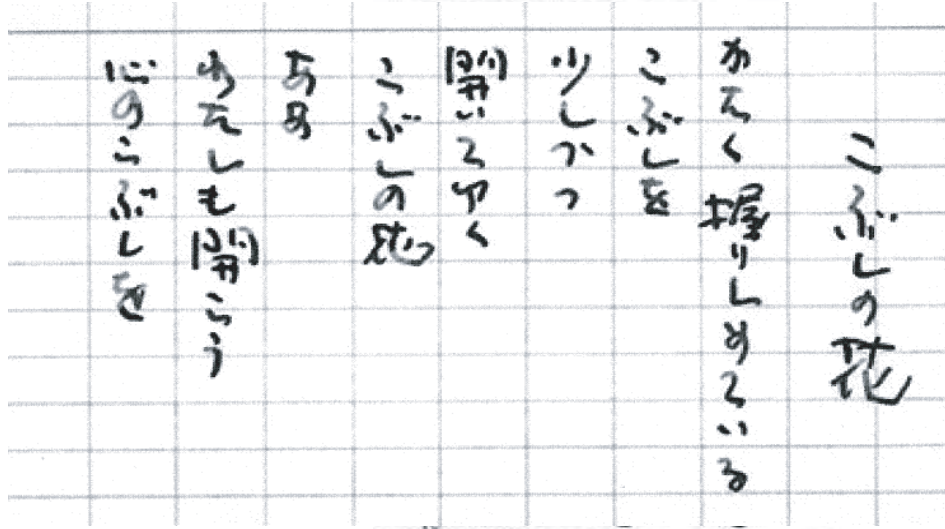


笑う門には 福来る。



松山市勝山町1-18-10
(株)日本交通社
TEL(089)946-3911
発行人：中村剛志



坂村真民記念館(砥部町)

明朗・愛和・喜働

落語の魅力

日本の伝統芸能の一つである落語は、江戸時代から現在まで、庶民の娯楽として親しまれています。

同じ演題でも、落語家によって演じ方が異なるため、違った斬のようにも聞こえるところが落語の魅力の一つです。話し手の声の調子や間の取り方、表情次第で、人物像や情景が変化し、斬の世界は無限に広がっていきます。

また、落語を楽しむには、聴き手の想像力が欠かせません。一人で何役もこなす巧みな技量も、聴き手が頭の中に映像を思い浮かべなければ、誰が何を言っている場面なのか、よくわからなくなる時があります。

伝える側と受ける側、双方が心を合わせることで、会場全体が一つになり、笑いと感動が生み出されるのです。

日常会話も、話し手と聴き手の協力があって成り立っています。伝える側の工夫はもとより、聴く側が想像力を発揮して、相手の言葉を補いながら受け止めることも必要でしょう。

● 良い聴き手を目指しましょう



「職場の教養」より

宇和ちゃんの啖阿II短歌

安芸灘を旅客フェリーはゆつくりと

沈む夕陽を背景にして

一階から二階三階四階と

学習塾が増殖してゆく



秋田 緑の言の葉カード



★「言の葉ネットショップ」から購入できます。

<http://greenti.shop-pro.jp>

保親さんの人生万感

啄木の嘆きは今も変らざり

格差社会に沈む若者

石積み之父祖の汗しむ段畑を

守る人なく過疎が進みて

○ 感じ方、考え方は人それぞれ

互いの違いを認め、尊重し合ひましょう。

「人は人・自分は自分」と理解することが円満な人間関係の鍵です。

道しるべ